

# なぜ、ごしゅいんが水晶なのか？ ～山梨県の宝石産業について考える～

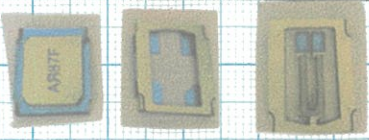
双葉東小学校 4年 萩原 京子

## 〈目次〉

1. きっかけ
2. 質問と予想
3. 方法
4. 結果
  - (1) 金ざくら神社について
  - (2) 山梨県内の水晶の産地 ～行てたゆめる～
  - (3) 山梨県の水晶のれきし ～文けんてたゆめる～
  - (4) 山梨県の宝石産業の現ざい～数字でたしかめる～
  - (5) かざりではない水晶の活用 ～インタビューでたしかめる～



5. わかったこと・まとめ
6. これからの宝石産業について～角度を変えて考えてみる～
7. 次に調べてみたいこと
8. 参考にした資料など



## 1. きっかけ

金ざくら神社という場所に行っ、ごしゅいんをもらう時、ごしゅいんがいろいろあるのがある。それは、写真のような印だったので。聞いてみると水晶だということでした。重く押しやすそうではありませんでした。2kgもあるということでした。なぜ、水晶が印として使われているのかを調べることにしました。



ごしゅいんをもらった時、その時の様子です。とて重く、字を書いてもだだり印をおいてくださりました。印についてさいてみると水晶だということでした。重く押しやすそうではありませんでした。持っていた以上には重かったです。



## 2. 質問と予想

- 質問①：なぜ、金ざくら神社で水晶の印が使われているの？
- 予想①：山梨県では昔から水晶が有名だから。
- 質問②：なぜ、山梨県では水晶が有名なの？ ことから水晶と関係があるのだろうか？
- 予想②：山梨県で、水晶がとれたから。 大昔からつかわれていたのではない。

## 3. 方法

- ・本やインターネットで調べてみる。
- ・現地に行てたしかめてみる。
- ・インターネットや見学でたしかめてみる。



## 4. 結果

①金ざくら神社について

金ざくら神社のホームページには、次のようなことが、書かれています。

甲府のしよせんきよを登ったところにある金山峰山をこの神体とした神社です。

第十代景神天皇の時代(約2000年前)、各地で病がはやり、神をまつて、悪えき退さんなどをねがいました。

甲斐の国(現山梨県)では、金山峰山頂に少彦名命(すくなひなみのみこと)をまつたのが、金ざくら神社の起源です。

御神宝(神社の宝)はこの地で発くつゆれ、みかき出された水晶(水の玉)で、尾に水晶をからせた「昇降意」があります。

御神宝が水晶ということでした。しかも「この地で発くつされてみかき出された」とありました。予想したとおりの水晶が、見えてきました。しかも、私か思っていたよりも、古くから水晶と関係がわりありそうなのこと、

「昇降意」です。本当に、尾に水晶があるのが、御神宝の御神宝と関係があるのかな。

御神宝の「水の玉」  
御神の井戸で、夜にたると、龍が井戸の水を飲んだといわれている。





## (2)山梨県内の水晶の産地

金ざくら神社の周辺で水晶がとれたということは見えてきました。しかし、水晶がとれたのがこの地を広げたこと、山梨県全体で水晶が有名であるということにはつながらないような気がしました。山梨県内の他の地も調べて、水晶がとれるという場所があるのではなにかと考えました。

そこで、山梨県内で水晶と関わりがあるような場所について、本やインターネットで調べ、実さに行ってみました。そして調べた場所について、下の地図にまとめました。

- |   |       |
|---|-------|
| 1 | 向山 鉦山 |
| 2 | 黒平 鉦山 |
| 3 | 水戸 鉦山 |
| 4 | 乙女 鉦山 |
| 5 | 三富 鉦山 |
| 6 | 竹森 鉦山 |

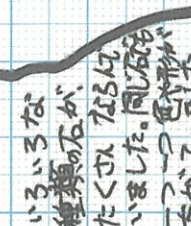
### 地図 山梨県内で水晶がとれた場所



水晶がとれたという地名は、とれたきれいなとこに由来している。



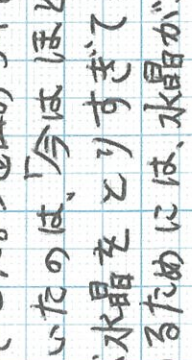
水晶は、いろいろな種類があるんだなと、思いました。



いろいろな種類の石が、たくさんあります。同じ石でも、一つ一つ色や形がちがっています。



水晶は、いろいろな種類があるんだなと、思いました。



水晶は、いろいろな種類があるんだなと、思いました。

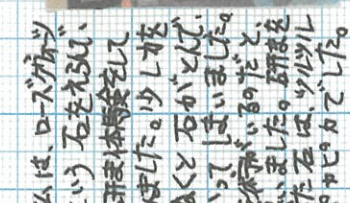
甲府市街から黒平の中にある 果仙峡では、ほとんどの土産物屋で水晶が売られている。昔は黒平でとれた水晶がつかわれていた、という記述があったので、果仙峡に行ってみました。すると、現在でもたくさんの土産物屋があり、私も、水晶探しや「研まじり」を体験してみました。水晶だけでなく、いろいろな宝石が売られていました。その中には私の背くらにある大王さまのものも、さすが、細かく、加工された置物などもありました。



私は、ローズクォーツという石を、研まじりして使っています。少し乾燥していると、石が少しづつ減ってしまったり、変色することもあります。研まじりした石は、少くとも半年かかって磨かれます。



私は、ローズクォーツという石を、研まじりして使っています。少し乾燥していると、石が少しづつ減ってしまったり、変色することもあります。研まじりした石は、少くとも半年かかって磨かれます。



私は、ローズクォーツという石を、研まじりして使っています。少し乾燥していると、石が少しづつ減ってしまったり、変色することもあります。研まじりした石は、少くとも半年かかって磨かれます。



私は、ローズクォーツという石を、研まじりして使っています。少し乾燥していると、石が少しづつ減ってしまったり、変色することもあります。研まじりした石は、少くとも半年かかって磨かれます。

予想したとおり、何か所か、山梨県内には水晶がとれた場所があることがわかりました。金ざくら神社のあたりもその一つでした。地図のタイトルを、「水晶がとれる」ではなく、「水晶がとれた」としたように、どの場所にも共通していたのは、「今はほとんどとれない」ということでした。



昔の人が水晶をとりすぎてしまったので、今はもうほとんど残っていないのではないかと考えました。そのことをたしかめるためには、水晶がとれていたころの、山梨県の様子について調べる必要があると考えました。

そこで、山梨県の水晶のれきについて調べてみることにしました。



### (3) 山梨県と水晶の成長

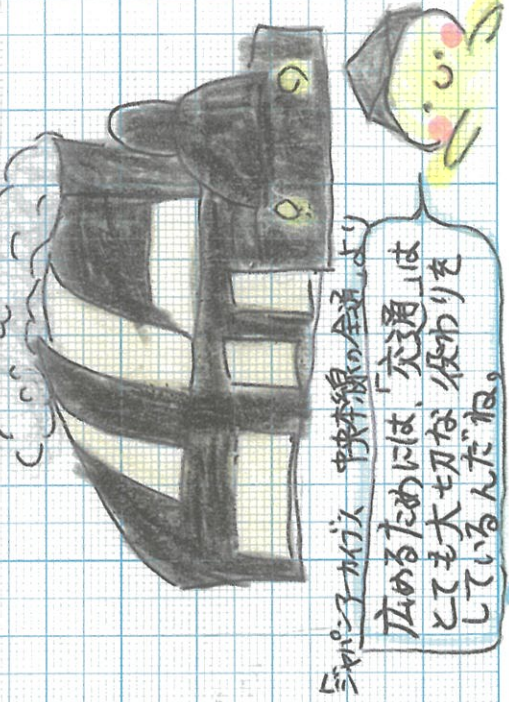
いくつかの本や、資料をさん考にして、山梨県と水晶の成長を次の年表にまとめてみました。

水晶加工の始まり	縄文時代 5000 ~ 3000年前	水晶を加工した、石ぞく、矢じりで狩りをしていた。  矢じり
水晶加工の発見	古墳時代 200 ~ 600年頃	養身具(かざり)として水晶の玉を使っていた。 
江戸時代	1603 ~ 1868年	京都生まれの玉屋の跡助が山梨に来て、金ざくら神社の神官に水晶のみがき方を教えた。 金ざくら神社の神官が京都に行き、玉屋に玉造りをいらいした。 金ざくら神社の父の玉の水の玉は京都の玉造り屋に加工したといわれる。 江戸時代の織物にまで「水晶」と書かれた。 (明治から水晶に) 水晶をとることを禁止されたので、大きな産地がなくなった。 横浜の港で売られていた海外のガラス製品をヒントにして、神官たちも玉だけを細工するようになった。(甲府買物屋 榎葉内町)
水晶産出の最盛期	明治時代 1868 ~ 1912年	水晶をとるものが増え、山梨県では水晶の採掘がさかんになった。 明治10年(1877年)ころから採掘がさかんになり、水晶業者も増えた。 明治20年(1887年)から明治30年(1897年)に採掘は、最もさかんになった。 明治22年(1889年)をピークに産出量が減少した。 産出量が、たくさん起こる。(1867年から1911年までに18回) 水晶採掘のため山を削ったことが原因の一つとされる。 → 明治30年(1897年)に法律で採掘を禁止された。 明治30年(1897年)ころから小規模商人や通信販売により、甲州水晶が全国へ
水晶加工のきま	大正時代 1912 ~ 1926年	明治時代の終わりから大正時代の初めにかけて原石が不足した。 → デジタルから水晶を中入した。 第一次世界大戦という戦争により、日本の景気がよくなると、水晶細工はなやかになり、「金」が使われるようになった。 「金ぶらめがね」「金のゆびわ」「時計の金くさり」などが人気であった。 ※ 手作業から機械が使えるようになり、大正時代よりありあけには加工方法は進化した。 「足ふみ式コマ磨法」(土屋幸章)
世界的な宝石の街へ	昭和時代 1926 ~ 1989年	第三次世界大戦という戦争のころには、宝石の輸入が制限された。 戦争中にはその飾具(かざり)としての水晶細工がむしろかよった。 (売いたくはてまてきととれしていたため) 戦争の後、宝石研磨、金ぞく加工のよくなる、それをつくる場所が集まり、山梨県の甲府でも甲府市は「ジュエリー」の街といわれるようになり、世界にも売られている。

### 年表にまとめてみて気づいたこと

- ・ 縄文時代という、すごい昔から水晶が使われていた可の可能性がある。
- ・ 古墳時代から「かざり」として使われていた可の可能性がある。
- ・ 江戸時代に京都のよくなるが、水晶研磨というみがく技術」を伝えた。
- ・ 金ざくら神社は、みがく技術」が伝えた場所とされている。
- ・ 江戸時代まで水晶の採掘は禁止されていた。
- ・ 明治時代になってたくさん採掘されるようになった。  
→ 水晶産出の盛んな 水晶不足 水晶の発生
- ・ 明治時代には山梨の商人が全国に売っていた。(通信販売もしていた)
- ・ 水晶研磨の技術」を使って、金なども加工されるようになった。  
→ ジュエリーの街」といわれるように...

「明治35年(1902年)に、中央線とい  
う鉄道が、とおったこと山梨県  
の水晶が  
全国に広まった理由の一つ」と書  
いてある  
ものも見つけました。



現在の山梨市板垣町  
甲州市塩山などで、  
発見

山梨県内各地の  
いせきから発見

山梨初の水晶玉?

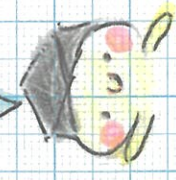


金峰山などの産地は  
採掘されつくしてしま

「甲斐物産商法」とい  
うものがあつた。工場や  
和紙のついでに

金などの加工が始まり  
現在の宝石産業の  
土台となっている。

何で戦争のあとに  
復活することが  
できたのかな?





# [年表中の水晶系工について、もう少しくわしく！]

しゃせんきょうに見学に行ったら、いろいろな種類の水晶系工がありました。水晶系工のほじまりについて気になったので調べてみることにしました。

調べてみると、塩入寿三(しおいりとしぞう)というしゃく人と金ざら神社の関わりがわかりました。

塩入寿三(1854~1933)

金ざら神社の神主

父から水晶研磨を習った。

1867年に横浜の港でガラス製の五重塔を買ってこれを見て水晶で刻んでみた。

→玉以外の水晶系工のほじまり？

・1873年 ウェン万博に、17.3cmの銘玉を出品した。

※フクダのに4年ちかからた

※東京の上野にある国立博物館に保存される。

金ざら神社にとりて水晶は特別な存在で、外国との関わりによって水晶細工が発見したのだと思はれた。

[年表中の「水晶加工の始まり」についてもう少しくわしく!] からここまでの研究のふり返り

年表にまとめてみて、維新時代というものが、昔から山梨県で水晶が使われていた可とう性があつたことを知り、おどろきました。年表中の水晶加工の始まりに関連して、右の地図は山梨県立考古学博物館の資料をもとに山梨県産の水晶がどこで使われていたのかをまとめてみたものです。

宮城県から静岡県までと私が思っていた以上に、広い土地で、山梨県の水晶が使われていた可とう性があることがわかり、さらにおどろきました。

また、山梨県の水晶研磨の技師は、京都とつなびが、あることと、今回の研究のき、かけになつた金ざら神社が、深い関わりをもっていることもわかってきました。

さらに、明治時代に水晶をとりすぎ、しまったために、ブラジルからや入していたことと、水かみの原因の一つともいわれていることもわかりました。山梨県の水晶の少し暗い部分も見えたような気がしました。

そして、山梨県と水晶の関わりがあったからこそ、現在では、山梨県において、水晶だけではなく、いろいろな宝玉石産業が有名になつて、いるというところが、見えてきました。

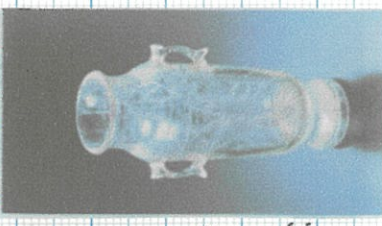
でも、年表の中には、「空エリーの街」と書いてあつたことが、正直、私は、今まで、そんなことを意識してきませんでした。ありませんでした。山梨県内の人や山梨県外の人に、どれくらい「空エリーの街」ということと、ここ(私)が、調べてきた水晶との関わりについて、伝へて、いっただろうと、き聞に思いました。それに関わつて、水晶の、れについて調べて、資料の中には、次のような文が、書いてありました。

現在、山梨県の宝玉石産業は新興産地としての競争力、後継者不足など産地として一つの「**転換期**」にあります。

**転換期**ということとは、変わる時、何か変わる必要があるということなにかと思ひました。**転換期**ということとは、現在の山梨県の宝玉石産業は何か、困つて、いるのかと思ひました。そこで、上の文にある、新しい産地、や、後継者に注目しながら、最近の山梨県の宝玉石産業について、調べてみることにしました。



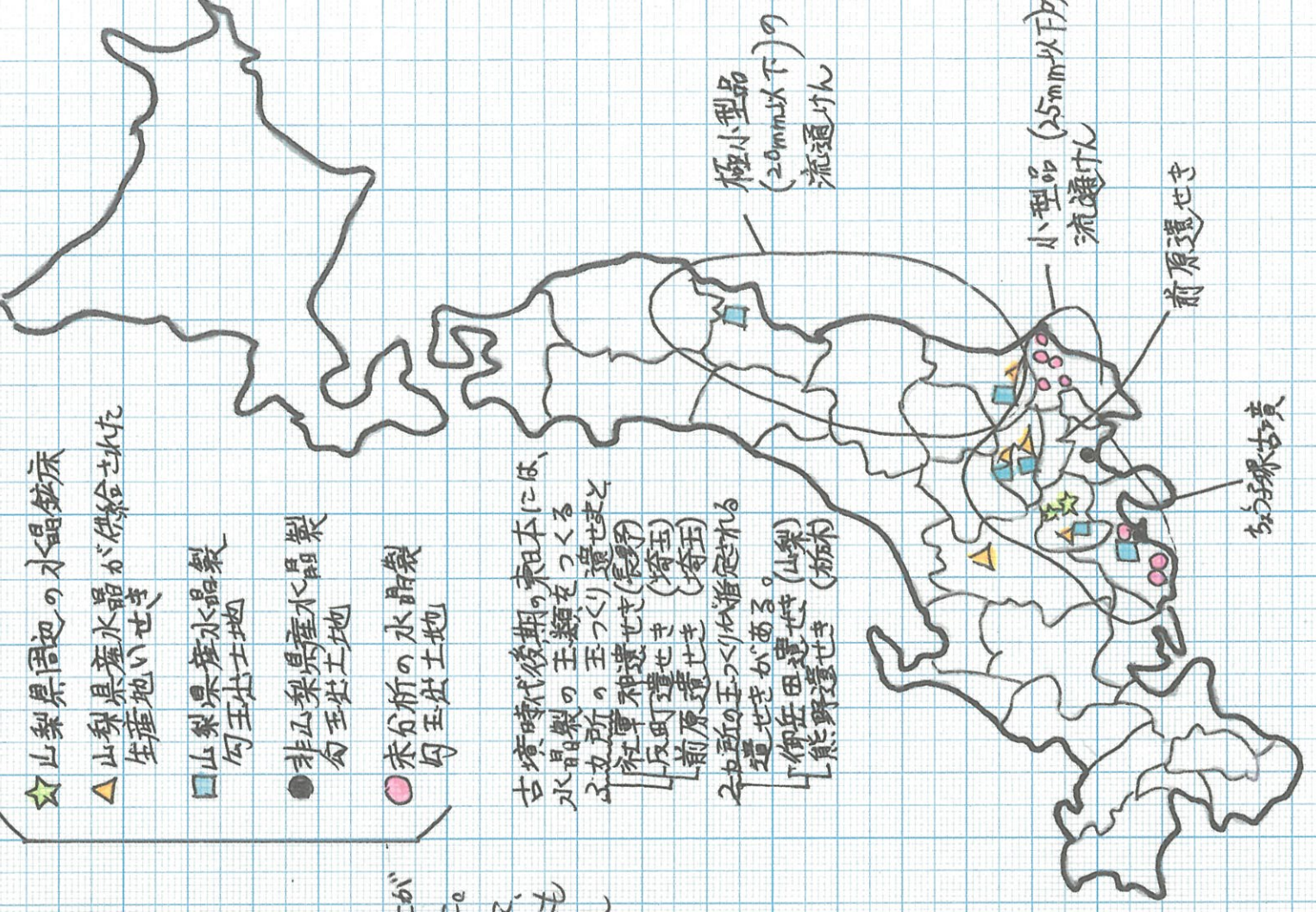
水晶すずり(明治俵)  
(山梨県産水晶原料が、  
とちから、塩入寿三が、  
つちたのたそがてす)



水晶花瓶(明治俵)

## 地図、山梨県産の水晶の広がり

- ☆ 山梨県周辺の水晶鉦床
- ▲ 山梨県産水晶が生産地いせき
- 山梨県産水晶製勾玉出土地
- 非山梨県産水晶製勾玉出土地
- 未分析の水晶製勾玉出土地



玉つくり遺せきに供給された水晶は、長野県社軍神遺せき、埼玉県反町遺せき、山梨県御坂田遺せきの3カ所が分所してきた水晶のほじまりが山梨県産であることが判明した。さらに、埼玉県前原遺せきの出土品のほとんども山梨県産の水晶であることが判明している。

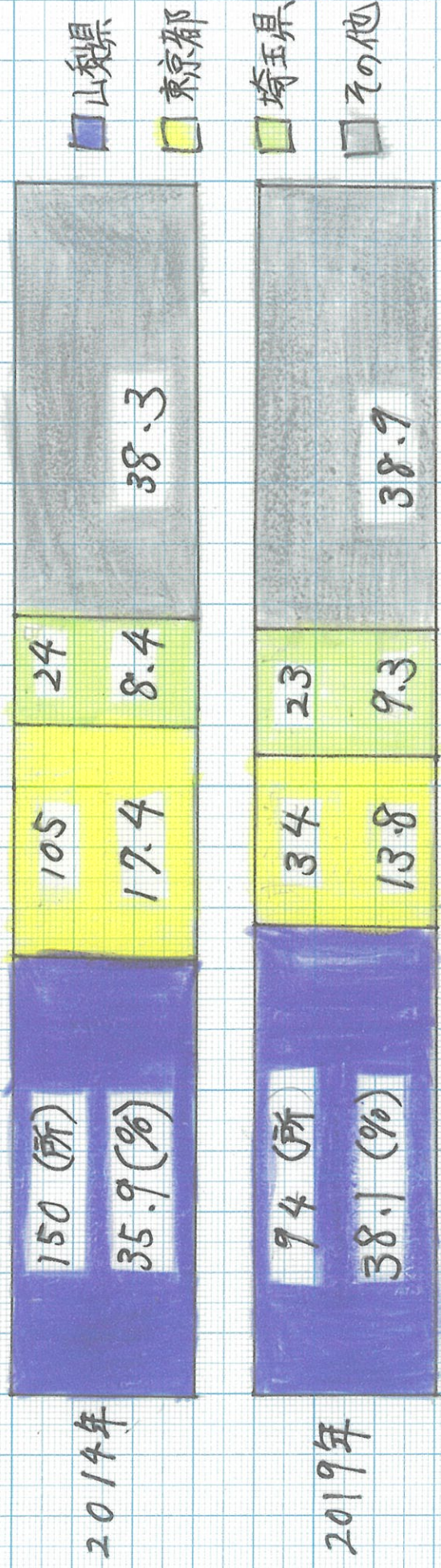
また、埼玉県の勾玉の中心に黒い点の紋物が入りにくく、山梨県産の水晶からつくられた勾玉とみられる。これは電気石とみられ、甲州内の竹森産などから産出される水晶によく見られるのだ。この勾玉の分析の結果、古墳時代前期に東日本でも、いられた水晶の素材はほとんどが山梨県産であるとされている。これは宮城県から西は、静岡県まで、広い範囲に流通していることが判明している。



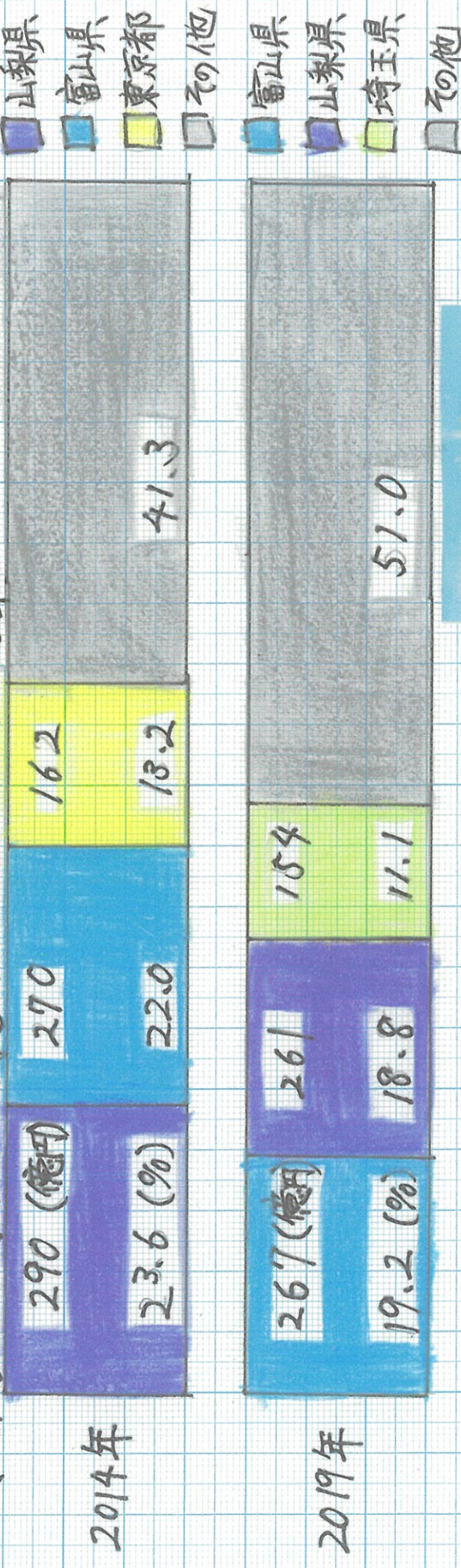
(4) 山梨県の宝石産業の現在

最近の山梨県の宝石産業の現在について調べたために、終業省の資料を使って、売り上げや事業所の数について、下のグラフにまとめて、どのようになっているか、見えてきました。

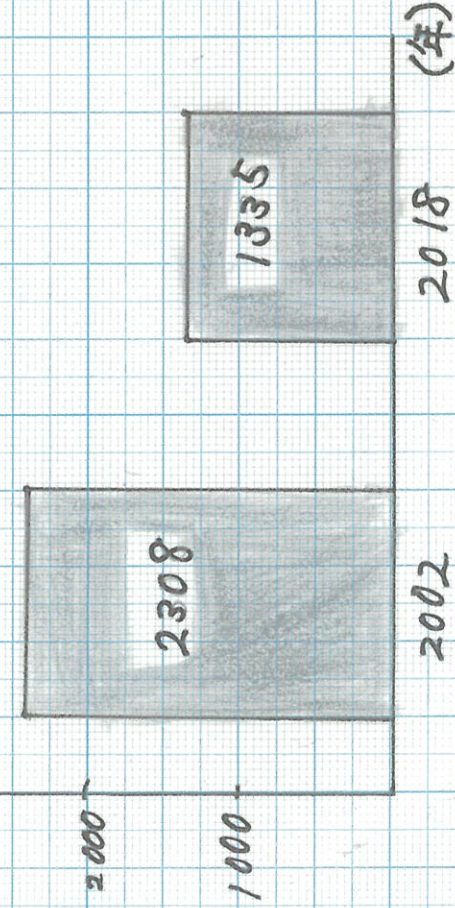
グラフ1 都道府県別の宝石に関連した事業所数の変化 ※ 2002年の山梨県の事業所数は62所



グラフ2 都道府県別の宝石に関連した製造品出荷額の変化



グラフ3 山梨県の宝石産業に関連した従業員数の変化 (人)



昭和30~昭和60年 山梨の大部分は水晶をメインに浮城



昭和60年 平成元年 山梨のメインは水晶と玉石の指輪



ゆめ・きら・リング  
・2019年11月11日～  
・ステンレス製  
・高さ3m31cm 幅3m20cm  
・造形作家 柳川右左衛門

[グラフ3. 読み取ったこと]

・グラフ1から2014年も2019年も山梨県は全国一で、30%以上の事業所が山梨県にある。しかし、事業所の数は減っていて、山梨県では、2002年と2019年を比べると、半分近くまで減っている。全国的に減っている。  
・グラフ2から、日本全体の出荷額は増えているのに、山梨県の出荷額は減っていて、2014年には山梨県が1位だったが、2019年には、富山県が1位になっている。  
・グラフ3から、山梨県の宝石産業の働く人が16年間で約1000人も減っている。

事業所数が全国で1位となっているように、現在でも全国的にみて、宝石産業が盛んであることが見えてきました。今回の研究を進めていて、写真の甲府駅の南口にあるモニュメントも宝石に関するものだとして初めて知りました。山梨県にとって、宝石産業は大切に考えられているのだと感じました。  
一方で、出荷が、売上げが落ちてきたり、働く人が減ってきたりしているなどの課題があることも見えてきました。富山県のように出荷額が増えているところがあり、新たな産地が増えていることも見えてきました。転換期を過ぎていて、富山県のように出荷が見えてきました。水晶など、ジエリーが山梨県を今以上に元気にしてくれたいなと思います。言っている全国的に山梨県と宝石が結びついていないという課題も挙げておきました。このような課題をよい方向にしていけるために何かできることはないか、考えたいです。  
その時、今までの仮りにこだわらず、いろいろな角度から宝石を見てみる必要があるのではないかと考えました。